

人権を守る為

1989年の6月4日に、中国の民主化を求める学生、市民に対して大規模な虐殺が発生した。その時、筆者は東京の日本語学校の生徒で、何回も東京の抗議デモに参加した。

今年「天安門事件」が発生してから25年の年である。6月1日、在日中国人の団体が、「天安門事件」を記念するため池袋でデモを開いた。筆者は2010年のノーベル平和賞の受賞者で、今また獄中にいる劉曉波氏の画像を持ち、デモに参加し、大きな声で「劉曉波を釈放しろ！ 全ての政治犯を釈放しろ！」と叫んだ。デモは池袋の南口の公園から西口公園まで、約1時間にわたって進行した。その日は日曜日で、買い物客や車でかなり混雑していた。デモの進行中、当然駅の周辺にいる人には迷惑をかけた。筆者は道路や車の中にいる日本人の穏やかな表情を見て、非常に安心した。数

十人の警察官が、我々を保護するためデモの始終ずっと傍にいる。その時、なぜ中国人の人権は母国の中国に守られていないのに、日本というよその国で守られているのかという問題について考えた。

十数年前、中国が「公民権利と政治権利の国際条約」に加入した。しかし、この十数年で中国の人権状態は良い方向には進まず、悪くなる一方である。当然原因は多数であるが、その中でも特に庶民が法律、人権に対して無関心、無知であることは重要な原因だと思う。

2年前の中国国内での経験は、筆者にこの問題を深刻に認識させた。ある日、タクシーに乗って、地方裁判所の前を通



った。突然、二人の老夫婦が、泣きながら歩道から車道に飛び出した。彼らは、自分の土地を低価格で地方政府に買取され、老後生活は保障されないという看板を挙げて、周りの人々に応援を求めている。タクシーの運転手は、老夫婦に対し

「お前らは無駄な事で他人に迷惑をかけるな」と叱った。筆者は運転手に対し「老夫婦は裁判所が支持してくれないから、仕方なく市民の支持をお願いしたからただだけで、みなに無視されて可哀そうではないか」と制止した。しかし、運転手はこの意見を聞いてくれず、また強い口調で老夫婦に道路から退去するように責めた。タクシーが一寸走った後、運転手に彼の景気について聞いた。彼は、「今の政策は非常に悪く、タクシー業界の税金は重く、数日後、十数人と一緒にデモをやりたい。」と話した。筆者は、「他の人にとつて、君らのデモも非常に迷惑なことだ、君らは叱られたら、どう考えるだろう。」と話しかけた。

自分の人権を守る前に、他人の人権を守るべきだというのが、日中両国の人権状態を比較して出した一つの結論である。